

3年学年だより

吹田市立第二中学校 第三学年
平成30(2018)年7月11日(水)発行
No.13

公共のマナーについて

『岸辺駅までの道のり ～班行動の意識を持って～』

学校からはクラスごとに出発しますが、移動中やチェックポイントの通過は班で一緒に行動します。修学旅行ではタクシー研修を班行動で行いました。その時の経験を活かしてください。なんとなく歩くのではなく、班の仲間を意識して歩きます。道に広がっていたら声をかける、ダラダラしていたら声をかける。お互いが気を使い合っている。そんな姿を見せてください。

『梅田芸術劇場に向かうまでに』

駅の構内はたくさんの方が歩いています。急いでいる人、待ち合わせをしている人など。そういう場所を集団で移動する際も、いくつか気をつけるべきことを考えてみましょう。

『階段、エスカレーターを使うときには』

階段の場合は絶対に走らない。エスカレーターの場合は歩くことも控える。

これは安全を第一に考えての配慮です。特に近くにお年寄りや小さな子どもがいる場合は気をつけましょう。

手すりを使う、一段ずつ上がる。すべては君たちの安全のためなのです。

『電車内では』

君たちは公共の交通機関を使って大阪まで行きます。岸辺駅から出発し、大阪駅で下車。歩きで梅田芸術劇場へと向かいます。団体に電車に乗車するときのマナーはどんなものがあるのか覚えておきましょう。

いくつかの車両に分かれて乗車する 往路はなるべく後方車両へ

これはしっかりと守ってください。君たちの団体が一つの車両に、同じ扉から乗り込んだらどうなりますか。想像はつきますよね。

リュックなどの荷物は足元に置く

混雑が予想されます。一般のお客さんに不快な思いをさせてはいけません。

ほんのちいさな気遣いでかまいません。それでお互いが気持ちよく過ごせます。



会話はボリュームを考えて

『大阪駅まで一切話はしない』こんな厳しいルールは決めません。ただし、他の乗客に迷惑がかかるようであれば……。修学旅行の飛行機内はどうでしたか？一度学んだことを次につなげる。ここで君たちの真価が問われます。

吊り革の使い方

転倒防止のために車両内には吊り革が設置されています。しっかりとつかまることをオススメします。が、たまにこんな使い方をしている人を見かけます。

・一人で2つの吊り革を持っている。・吊り革にぶら下がるようにして遊んでいる。上に書いたのは、公共マナーを守れていないほんの一例です。自分の周りに目を向ければもっといろいろな気遣いができるはず。自分たちで考えて行動していきましょう。

『服装～ドレスコード、知っていますか？～』

ふさわしい服装で

みなさんは「ドレスコード」という言葉を知っていますか？服装に関する規定という意味ですが、場所によっては「こういう服装でないといけない」と書かれている場合もあります。それだけでなく、「マナーとしてこんな服装がのぞましい」という常識も存在します。クラシックコンサートや歌舞伎やミュージカルなどの観劇の際は、できるだけフォーマルな服装で入場することが慣例になっています。襟付きの服を着用し、ジーパンやハーフパンツ、ジャージなどはふさわしくありません。常識として心がけましょう。ということで、学校団体として観劇するときは制服を正しく着用します。（今回はポロシャツ、スカート、スラックスです。）



頭頂部にボリュームのある髪型はしない

お団子ヘアなどは、後ろの席の人の視界の妨げとなります。

これも知らず知らずのうちに迷惑になっているかもしれません。

『オシャレよりマナーを大切に』

『マナーが心のオシャレです』これを合言葉にしましょう！！

観劇中のルール・マナー

『いよいよ観劇です！！～まずこれだけは押さえよう！～』

開演前に席に着く

いざ開幕して、「さぁ観るぞ！！」と一気に集中して徐々にお話に入り込んで行く最中に、「すみません、ちょっとすみません…」と遅れて入って来る方が自分の座席列にいたら……。その場合、足をよけて通路を作ってあげなくてはなりませんね。

前後の座席間もそんなに広いわけではないので、そんなにスイスイと進めるわけではないです。よけたり通過するのを待っていたりすると、「大事な場面を見逃した…」ってことになりかねません。

今回は十分に観劇時間に間に合うように、ゆとりを持って出発します。余裕を持って座席を確認し、座れるようにしておきましょう。今回は、休憩中のみ飲食の許可を得ています。

トイレを済ませたり、観劇に向けての準備をしていると30分くらいすぐ経ってしまいますよ。

上演中の私語は厳禁

公演に関係ない話はもってのほかですが、「え？今なんて言ったの？」とか、「今のってどういう意味？」などの会話は、小さな声でも近くの席の人は結構気になってしまうものです。

家でテレビやDVDを見ているときなら、いたって普通のことですが、劇場内では極力避けましょう。聞きたいことが出てきたら、休憩中や終演後にしましょう。

拍手・歓声もダメですか？

ミュージカルを観劇したことがある人は分かると思いますが、観客の拍手はとても重要な演出となります。拍手が大きければ、キャストの気持ちが盛り上がり、普段以上の演技をみせてもらえることにもつながります。観客がキャストをのせていくのです。毎日のように演じられているものでも、日によって出来具合が違うなんていうこともあります。それは人が演じている生の良さです。ただし、拍手にはタイミングがあります。いつでも何度でもというわけではあ

りません。不必要な拍手は、演出をこわしてしまう場合もあります。普通、歌の後、幕の終わりなどが拍手のタイミングです。分からない場合は劇場の雰囲気を読み取って、少し遅れてもいいので拍手をしましょう。

前のめりに座らない

これは、実際に体験してみないとピンとこないかもしれませんが、背もたれに背を付けずに前のめりになると、後ろの席の人にとって頭が邪魔になって見づらくなってしまいます。

ある劇場では、開演前に係の人がプラカードを持って「背もたれに背をつけ、前のめりにならないようにしましょう」と注意を呼びかけています。

たくさん挙げましたが、どれも独特のルールではなく、あくまでも「他の人の迷惑にならないように」という配慮の数々です。

劇場に来ている人は皆楽しみにしているのですから、お互い気持ちよく観劇できるように心がけましょう

